

思いがけない生き方と

はらだひでゆき
ふくろい 袋井市長(静岡県) **原田英之**
Hideyuki Harada



ラグビーのキックにチャレンジする筆者

9月28日、袋井市にあるエコパスタジアムで開催されたラグビーワールドカップ2019において、日本代表がアイルランド代表に勝利し日本中が歓喜に包まれました。日本国内はもとより、世界中の人々がこの結果に驚き、私はもちろん8万8000人の袋井市民にとっても、強く記憶に残る特別な日となりました。

思いがけない市長就任

間もなく市長として、19回目の年末を迎えます。今年もさまざまなことがあって、1年があつたという間に過ぎました。

県庁の職員であつた私に、市長選挙出馬の話があつたのは、暮れの12月24日。前任の豊田市長が選挙運動中にくも膜下出血で倒れ、400票差で当選したのですが、そのまま逝去されました。そこで、支援者たちが地元で候補者を探したものの、引き受

けて立候補する人がなかなか見つからず、静岡市に住んでいた袋井市出身の私に話が来しました。

当時、静岡市内に小さいながらもわが家を立て、子どもたちもほぼ独立しており、57歳になっていた私にとって突然の話であり、妻もあまり乗り気ではありませんでしたが、高校の先輩でもあつた知事に相談をしました。知事は出馬の要請に來た袋井市議会議員の方々に、「選挙による分裂を収めて一本化できるならば私を説得する」旨の約束をいたしました。袋井に戻つたその議員の方々はすぐ調整に入り、翌25日には結論を持つてきて、知事に説明をし、了解を得たのでした。

私は、年末までに終えるべき仕事に忙殺されていましたが、12月27日に秘書課から連絡が入り、その日の夕方6時に退職辞令の交付が行われました。退職は御用納めの28日と思つていただけに、いささか慌てたことを思い出します。

年が変わつて翌年1月7日告示、14日選挙と目まぐるしく私の市長生活が始まつたのでした。

始まりは思いがけないものでしたが、今、私は市長という職が自分の全てを懸けるに値する、とてもやりがいのあるものだと思つています。19年前の年末年始のこの出来事は、まさに私の人生のターニングポイントでありました。

そして、最初は袋井へ来ると頭が痛くなると言つていた妻も、今では私より多くの友人がいて、毎日出掛けています。女性は、男性よりも土地に慣れると強いものであると、うらやましくもあり、うれしく思っています。

三つの健康法

市長生活19年の間、ほとんど病気をしていませんし、土日もあり休まずに仕事をしてきました。健康のためにいろいろな方法を試してきましたが、今は、次の三つのことを続けています。

夜11時半過ぎに寝て朝5時半頃起きる私は、昼休みの時間を、12時から13時半までとしています。この1時間半で、テレビを見ながら食事をし、新聞を読み、うとうとと昼寝をします。12時40分くらいから眠くなり13時頃に目が覚めます。

手作りのカスピ海ヨーグルトに、緑茶の粉末を加えたものを25年以上飲み続けています。ヨーグルトがなくなると、成分無調整牛乳を加え、丸1日温めておくと出来上がります。長期間の出張の時にも、冷蔵庫の中で10日間位そのままの状態でも保存できます。飲むのは朝食前で、コップ7分目くらいのヨーグルトに、緑茶をミキサーで粉末にして小スプーン1杯分を入れて飲みます。砂糖より緑茶のほうが体に良いですし、緑茶はお茶どころの当地では香典返し

にもよく使われるので、わが家にはいつもたくさんあります。

毎日、7000歩以上歩くことにしています。朝6時から7時までの1時間、犬とともに歩くと6500歩位になります。もちろん雨が降っても日が照っても歩きます。これも25年以上続けており、通り道が決まっているので毎朝10人以上の方



みんな昼寝



とあいさつし、時折、顔見知りの人が、自分で作った野菜を持たせてくれることもあり、家に帰って妻がそれを朝食に使うこともあります。

趣味の囲碁

長年、囲碁を楽しんでいます。が、県庁囲碁部の部長になった時、社会貢献を提案しました。日本棋院の安田9段(故人)が「ポン抜きゲーム」という誰でも簡単にできる囲碁を教えていることを知ったので、早速、市ヶ谷の日本棋院へ伺い、来静をお願いしました。

静岡県立吉原林間学園(児童福祉施設)の園長さんが会員だったので、彼女のところで「第1回ポン抜きゲーム」が行われ、その後静岡県内では「ふれあい囲碁」という名前で、各地の幼稚園や老人会で行われ、平成13年10月には、当時の天皇后陛下も、富士市の体育館で行われた幼稚園の子どもたちによる「ふれあい囲碁」をご覧になりました。

また、棋院の大竹理事長(当時)とも親しかった、与謝野馨元衆議院議員(故人)から地元の柳沢伯夫元衆議院議員へ話があり、私のところへ来たのが、世界アマチュア囲碁選手権の袋井開



碁碁は生涯の趣味

催でした。地方で初めて行われることとなった大会での私の仕事は、主に資金集めでしたが、幸いなことに県知事や静岡新聞社長が囲碁好きであったので、十分とは言えないまでも、目標額には達することができました。世界から300人以上の選手が集い、4日間の大会が行われ、中国の選手が優勝しました。私も、一見弱そうに見えたヨーロッパの選手に練習戦を挑みましたが、あっけなく負けました。聞けば彼は5段で、ドイツ代表でした。

最近の日曜日の午後、時間の取れる時には、県庁囲碁クラブの会長を務めた友人に、拙宅に来ていただき、碁を打ってもらっています。もちろん石を置いてです。あまり局数が多いと惰性になるので、3局教えてもらっています。今でも勝てばうれしいもので、相手よりも先を読んで、それがうまく当てはまった時が爽快です。